筑豊小児科医会会報

Vol.238　2026.11



Contents

- ✧　トピックス
- ✧　小児科関連勉強会のご案内
- ✧　Pediatrics note（小児科　診療部長　大矢崇志）
- ✧　AI-CAP 通信
- ✧　研修医のご紹介
- ✧　飯塚病院　月間診療のまとめ《2026 年 8 月》

発行：飯塚病院小児センター（飯塚市芳雄町 3-83）
（代表）TEL：0948-22-3800

トピックス

小児虐待防止委員会　委員長　大武　瑞樹

「知らせよう あなたが あの子の声になる」――これは、今年度の児童虐待防止推進月間の標語です。子どもたちに携わる我々医療者は、子どもやその家族の SOS を逃さないセーフティネットであり続ける必要があります。しかし、その SOS は時に「声なき SOS」として発せられるため、周囲から見過ごされてしまうことも少なくありません。

児童虐待の早期発見は、日常診療のささいな「気づき」から始まります。不自然な外傷の有無だけでなく、「親の顔色を過剰にうかがう」「保護者が育児に強いストレスを抱えている」といった、身体診察だけでは見えてこない親子の関係性やサインに気づくことも非常に重要です。

そしてそのサインに気づくためには、まず私たち自身が「児童虐待について知る」ことが不可欠です。当委員会では職員向けの勉強会を開催するほか、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等による多職種カンファレンスやケース会議を定期的に実施しています。

さらに、病院という枠組みを超えて SOS をすくい上げるため、院内の活動にとどまらず地域の児童相談所や関連施設の皆様とも密に情報共有を行い、ご家族を孤立させない支援を目指しています。

困っている「あの子の声」を逃さずに、支援の手を差し伸べられるよう、当委員会は今後も活動を続けてまいります。すべての子どもたちが安心・安全な環境で健やかに成長できるよう、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

小児科関連勉強会のご案内

■令和 8 年度　筑豊地域小児在宅医療定例研修会

●日　時：2026 年 11 月 5 日（木）18:30～20:00

●会　場：のがみプレジデントホテル

【特別講演】「家族の病気体験の理解」に基づく家族との対話と援助関係の形成

～家族が発するサインの意味を考える～

聖マリア学院大学　家族支援専門看護師　山口 智治　先生

■LGS について考える会　from 筑豊（第 378 回 筑豊小児科医会勉強会）

●日　程：2026 年 12 月 15 日（火）19:00～20:10

●形　式：WEB 配信（Zoom　Webinar）

■第 379 回 筑豊小児科医会勉強会

●日　程：2027 年 1 月 21 日（木）

Pediatrics note（小児科 診療部長 大矢崇志）

11 月です。この間、年が明けたと思ったら、残すところ２ヶ月になってしまいました。歳をとると月日の流れが早いものです。こんな僕にも若い頃があり、小児科医になりたての頃は小児の救命救急医になりたいと思っていました。大学での研修を終えて勤務した小児の救命救急、集中治療、NICU をやっている総合病院で、大勢の重症な子どもたちが運ばれては退院する繰り返しの中、後遺症を残した子どもたちとそのご家族の行く末に興味が移り、大学の小児神経のグループに入って今に至ります。そんなことをぼんやり考えていたら大切な作品を思い出しました。

始まりは８月の映画館。いつものように上映前の予告を観ていたら、鼻から胃管を入れた笑顔の男の子がスクリーンいっぱいに映し出されました。そんなことは初めてだったので、その作品が公開された翌日に観に行ったのです。

―探偵の米本が殺された。調査を引き受けた元同僚の佐竹と助手の聡子は、調べを進めるうちに、9 年前に起きた新生児誘拐事件に辿り着く。事件との関連を疑う 2 人は、誘拐された子ども（新）を突き止めたが、新には重度の心身障がいがあり、寝たきりの状態であった。誘拐した父親（明野）による細やかな介護や医療的ケアによって、奇跡的に生き続ける新との出会いが、逃げ場のない現実にもがき苦しむ佐竹と聡子の心を動かしていく―

舞台は 30 年前の東京。僕が小児科医になる少し前の話でした。僕も新くんによく似た子どもたちの診察をしていますが、作中で新くんが周りに与えてくれた安らぎに似たものを感じることが少なからずあります。障がいのある子は天使だ、とかそんな話ではなく、僕の場合は外来で出会うその子とお母さんの絆のようなものに安心感や安らぎを感じているような気がします。新くんと父親の様子が胸に迫り、中盤以降は涙を抑えられませんでした。僕ももう少し頑張ろう。

あぁ、タイトルを忘れていました。『時には懺悔を』です。機会があれば、ぜひご覧ください。

＊お知らせ＊

Pediatrics Note は note にも載せています

さて、映画『時には懺悔を』をご存知ですか。ご存知ですね。

作中に登場する佐竹は、自身も重症心身障がいのある息子の父親でした。しかし、彼は家庭を省みることなく仕事に逃げ、介護を妻に押し付けた末に息子を亡くし、家族はバラバラになってしまいました。妻は精神を病み、長女（息子の姉）は障がいのある子のきょうだいとしての苦悩を経験し、親に頼ることができずに不安定な生活を送っています［きょうだい児のケアは小児医療にとって重要な課題です］。聡子は夫から DV を受け続け、とうとう娘にも手をあげるようになった夫に耐えかねて包丁で刺してしまいました。離婚調停中に夫から刑事事件として訴えられ傷害の罪で逮捕され、離婚後に娘の親権を失いました。そしてもう一人、物語には新くんの実母である民恵も出てきます。自分が産んだ障がいのある我が子に対して負い目を感じ、彼を愛することができず、誘拐されたにもかかわらずそのことに一抹の安堵を感じてしまった、その過去に強い後悔を抱える女性でした。人間の様々な業がないまぜになり、折り重なりながら、物語が紡がれます。一方、新くんと父親の明野。始まりは決して許されることのない誘拐でしたが、明野は献身的な介護を続け、二人は絆を深め、裕福とは言えないまでもささやかで穏やかな生活を送っています。

佐竹や聡子、民恵の苦悩や壮絶な過去は私たちの心を震わせますが、親の都合や苦悩が子どもたちに及ぼす影響は、この AI-CAP 通信でも様々な形でお伝えしてきた通りです。子育ての時期、親は自分の人生と子の人生を天秤にかけながら生活しています。その時期の親はまだ未熟で欲も大きく、子どもとだけ向き合い続けることは容易ではありません（経験談）。しかし、どこかで立ち止まって子どもと向き合わなければ、佐竹や聡子、民恵のように取り返しのつかない後悔を抱えることになります。人生とはかくもうまくいかないもの。医療・福祉・教育に関わる私たちは、子どもたちと同様に親にも寄り添う必要があります。作中、親である彼らに寄り添う支援者は描かれませんでした。現実の中では、私たちがその役割を担えるようになりたいものです。

文責：AI-CAP　大矢　崇志

＜AI-CAP 事務局へのお問い合わせ＞ TEL：0948-88-8220（直通）FAX：0948-88-2806

研修医のご紹介

●総合診療内科　専攻医 2 年目　藤田（ふじた）　彩（あや）

総合診療内科専攻医 2 年目、藤田と申します。宮崎出身で夫とともに勉強のため飯塚病院にきております。昨年初の出産を経て復職しております。出産育児において筑豊地域の住民の方の温かい視線や言葉に支えられ日々育児に奮闘しております。仕事も長いこと内科で働いており、小児科は不慣れですがたくさんの知識を吸収して精進していきますので何卒よろしくお願いいたします。

飯塚病院 月間診療のまとめ 《2026 年 8 月》

●入院患者数　**130人**　●外来患者数　**1,042人**　●救命救急センター受診者数　**66人**
●新生児センター入院患者数　**16人**　●分娩件数　**31件**　●手術件数　**12件**

●主要疾患数（退院患者数：**110 人**）

肺炎・気管支炎	19	痙攣及びてんかん	17	急性胃腸炎	8
低出生体重児	6	新生児呼吸障害・心血管障害	5	喘息	4
急性上気道感染症	3	腸重積・腸閉塞	1	その他	47

●紹介件数（五十音順）

小児科：122 件	
ひこばえ子どもクリニック	12
ささきこどもクリニック	8
坂本医院	7
あらきこどもファミリークリニック	6
頴田病院	
こどもクリニックもりた	5
吉國医院	
すどうクリニック	4
やまのファミリークリニック	

小児外科：18 件	
ひこばえ子どもクリニック	3
松尾ファミリークリニック	2
有松産科婦人科ユースクリニック	1
飯塚市役所　こども家庭課	
加来医院	
栗原小児科内科クリニック	
坂本医院	
田川市立病院	
たなかのぶお小児科　他 5 件	